

会 議 報 告 書						
会 議 名	令和6年度第1回草津市認知症施策推進会議					
開 催 日 時	令和6年8月7日（水） 14：30～16：00					
開 催 場 所	草津保健所 3階大会議室					
委 員	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
	委 員	金森 雅夫	出席	委 員	竹村 直人	欠席
	委員長	宮川 正治	出席	委 員	中村 敏治	出席
	副委員長	中野 悦次	欠席	委 員	原田 節子	出席
	委 員	山口 好則	欠席	委 員	服部 勝義	欠席
	委 員	服部 静香	出席	委 員	谷口 岩人	出席
	委 員	北村 眞弓	出席	委 員	谷村 豊彦	出席
	委 員	松永 将孝	出席	委 員	藤田 喜代美	出席
	委 員	青根 ひかる	出席			
事 務 局	健康福祉部：黒川部長、宮嶋副部長					
	長寿いきがい課：松本課長、田中課長補佐、三越係長、中西副係長、朝田主任					
	介護保険課：永原課長、木村参事、野邊係長					
そ の 他	傍聴者 なし					

1. 開会および挨拶

＜草津市附属機関運営規則に基づき、本委員会が成立していることを報告＞

＜健康福祉部長から挨拶＞

2. 委員・事務局紹介

＜事務局から紹介＞

3. 委員長・副委員長の選出

＜草津市附属機関運営規則に基づき、委員の互選により、宮川委員を委員長に、
中野委員を副委員長に選出＞

4. 議事

(1) 草津市認知症施策推進会議について

○事務局

＜資料 1 に基づき説明＞

(2) 草津市認知症施策アクション・プラン第 3 期計画について

○事務局

＜資料 2 に基づき説明＞

○委員長

認知症サポーターステップアップ講座について、令和 3 年度、4 年度は未実施であるが、それはコロナ禍の影響なのか。

○事務局

認知症サポーター養成講座自体がコロナ禍の影響を受けて回数が少なかったため、ステップアップ講座の開催につながらなかったと感じている。

○委員

認知症サポーター養成講座の案内を市から積極的に行うべきではないか。また、認知症キャラバン・メイトの交流会の参加人数が少ないことも気になる。事務局から参加を呼びかけるべきではないか。

○事務局

昨年度については市からの働きかけが十分ではなかったかもしれないが、今年度は児童育成クラブの管理者の会議等で、認知症サポーター養成講座の案内を行うなど、

これまで養成講座の申込のなかったところから申込があった。引き続き他の団体等にも働きかけていきたい。また、交流会については、日程が確定次第、早めに周知するようにする。

○委員

認知症サポーターやキャラバン・メイトとは何か。

○事務局

認知症サポーターとは、アクション・プラン第4期計画の14ページに記載されているとおり、認知症の人や家族を見守る応援者のことである。特別に何かしないといけないものではなく、地域での見守り活動など、自分のできる範囲で活動していただく。認知症キャラバン・メイトとは、認知症サポーター養成講座の講師役をしたり、市の認知症啓発の取組と一緒に実施したりしている。キャラバン・メイトになるには、養成講座を受講していただく必要がある。

○委員

地域サロンには介護サービスを利用している人も参加しているのか。

○事務局

介護サービスを利用されていない方の参加が多いものの、要介護認定を受けてデイサービス等を利用されている方も地域サロンに参加されている。自分に身近な地域サロンに通うことも一つの介護予防施策と考えており、地域サロンとしても受け入れている。

○委員

要支援認定を受けておりデイサービスを利用したい意向はあるものの、受け入れてくれるデイサービスがないため、介護サービスを利用しないまま状態が悪化しているということがある。そういうところにアプローチできたらと感じている。

○委員長

委員は地域サロンに関わっているとお聞きしたが、認知症の方も参加できるようなかたちで実施しているかなど、話せる範囲で教えてもらいたい。

○委員

マンションに居住しており、近隣にスーパーや病院もあって生活に便利だが、住民同士のつながりがいい状態だった。住民から「おしゃべりがしたい」「まちづくりセンターで実施されているいきいき百歳体操に参加しているが、マンション内でいきいき百歳体操ができるようにしてほしい」等の意見があり、社会福祉協議会の地域サロン立ち上げ講座を受講して地域サロンを立ち上げた。長寿いきがい課の出前講座に申し込んだり、社会福祉協議会でレクリエーションに使える物品を借りたりして活動している。地域サロンにはデイサービスを利用している方も参加している。今年度の実施はまだ3回だけだが、エレベーターで会った人と話すなど住民同士のつながりができてきている。

○委員長

サロンの実態についてよく分かった。

○委員

アクション・プラン第3期計画の基本目標1「認知症の正しい知識と理解を深める

ための普及・啓発の推進」、基本目標 2「認知症の人を含む誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進」、基本目標 3「認知症の予防等の取組」については、一定進んでいると実感しているが、基本目標 5の「認知症の人および家族への支援」が取り残されているように感じる。認知症と一口に言っても、症状は人によって異なるため、同じような症状を持つ人の情報を得ることで、本人が今どういう段階なのか、どのような介護サービスを利用するのが適切なのかが分かり、家族の不安が和らぐのではないと思う。基本目標 4「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の支援体制づくりの推進」の中で取り組めないものか。

○委員長

現時点では委員が言われているような取組は行っていないと思うが、家族への支援として、基本目標 5の中で「家族介護教室」があるので、取組を紹介してほしい。

○事務局

家族介護教室では毎回テーマを設定して行っており、認知症がテーマの回は参加人数が多い。教室の前半は座学、後半は介護者同士の意見交換の 2 部方式で実施している。介護者同士の意見交換については、介護者同士の思いを吐露する機会がある方がいいと考え、今年度から開始した。参加者からは「もっと話したい」という意見が出ており、今後は内容を検討し、充実させられるように取り組んでいきたい。

○委員長

家族の相談や支援については、従来から認知症の人と家族の会が活動されている。最近の活動を紹介してほしい。

○委員

電話相談を月曜日から金曜日まで行っている。つどいやカフェも行っており、市内には4つのカフェがある。つどいやカフェには家族が来られることもあり、特につどいについては、現在介護されている方が来られて、お互いに話をしている。介護する中での工夫等も共有している。

○委員

家族は事故等が起こる不安から、本人の行動を制限してしまいがちである。本人はまだできることもあるため、できることを奪われたようで、悲しく思っているという話をよく聞く。家族同士で困りごとを話す際には、本人の行動を制限するのではなく、本人にできることをやってもらうための工夫や代替案を情報交換できるとより良いと思う。

○委員

確かに本人がまだできることはあるが、家族の立場からすると、外に出かけると迷惑をかけるのではないかと、本人が嫌な思いをするのではないかと考え、本人の行動に制限をかけてしまうことがある。周りの人に認知症について理解してもらえるよう、引き続き活動していきたい。

○委員

認知症高齢者等個人賠償責任保険の加入者が298人とあるが、草津市には認知症の人が300人ほどおられるということなのか。

○事務局

認知症の人が何人おられるか把握はしていない。認知症高齢者等個人賠償責任保険

に加入する条件として、高齢者等見守りネットワークシステムに事前登録してもらう必要がある。事前登録している人数が332人であり、必要としている方の多数が保険に加入しているものと考えている。

○委員長

高齢者の人数は全体の人口の2割ほどであり、市の人口14万人のため、高齢者の人口は約3万人になる。認知症の有病率はおおよそ2割なので、市全体で6千人ほど認知症の方がおられる計算になる。

○委員

「地域の活動団体や企業、児童育成クラブ等において、認知症サポーター養成講座を開催」としているのは、場所のことなのか。

○事務局

地域で活動されている団体や市内の企業から申込があり、団体の活動場所、企業、市内の施設等で実施している。

○委員

児童育成クラブとはどういうことか。

○事務局

小学生向けの講座があり、児童育成クラブ（のびっ子）に通っている子どもたちに受講してもらっている。

(2) 草津市認知症施策アクション・プラン第4期計画について

○事務局

＜資料3に基づき説明＞

○委員

本人ミーティングの開催やチームオレンジの立ち上げは、いつ頃を想定しているのか。

○事務局

本人ミーティングは令和6年度内の開催をめざしている。チームオレンジは具体的な時期は決まっていない。

○委員

本人ミーティングは事業所を想定しているとあるが、介護事業所を想定しているということでしょうか。

○事務局

認識のとおり。

○委員

本人ミーティングはこれから開始ということか。

○事務局

これから開始する。

○委員

まず認知症の人がいるところで開催するということでよいか。

○事務局

認知症の人がいる事業所等で、何に困っているかなどテーマを設定して話ができたらと考えている。

○委員

次期計画を策定するまでに、認知症についての勉強やそれぞれの委員の取組についての意見交換をする機会があったらいいと思う。若年性認知症の方の半数以上は離職しているという報道があり、就労支援も重要であると感じる。若年性認知症の方と意見交換をする機会があり、外を歩いていて不安を感じたときに、スマートフォンやアプリが役に立っているとの話も聞いた。また、施策は見える化することも必要だと感じる。認知症の人にやさしいお店を地図に落とし込んで、どのようなお店なのか、利用した人がお店のどこを認知症の人にやさしいと感じたかなどを分かるようにしてみてはどうか。ウォーキングロードを委員で歩いて、認知症の方が歩くときに危険がないかなどを確認するという取組をしてみてもいいと思う。

○委員

令和6年5月に買い物ができるデイサービス「買い物デイ」を立ち上げた。介護が必要になると色々な支援を受けるようになるが、買い物については介護保険の仕組みの中では本人が行くことができず、家族やヘルパーに行ってもらうことになり、自分の生活から切り離されてしまう。また、ネットショッピングという手段もあるが、色々な手段から選ぶのではなく、その手段しか選べない状態になると窮屈さがあり、買うものが限定される場合もある。こういったことに問題意識を持ち、買い物デイを

開始した。買い物デイでは、3時間で買い物に行くことを機能訓練として実施している。買い物は何が必要か考える、自分が何をかうか決める、複数ある中から手を伸ばしてとる、支払いをするなど、生活に即した脳と体のリハビリテーションになると考えており、少しずつ広げていけたらと思う。

○委員長

デイサービスの中でボランティア活動をして報酬を得ているというような取組もあるが、買い物デイのような制度の枠組みに当てはまらないような取組やアイデアが、認知症になっても地域の中で生活していくために必要なものになると感じる。

○委員

認知症と診断されていないが、認知症の疑いがある人も多く存在すると思うので、そういったところにも支援をしてもらえたらと思う。

○委員

チームオレンジは在宅の方を中心として活動するのか。

○事務局

どのような枠組みで活動するのか検討中だが、在宅の方と一緒に活動することになると想定される。

○委員

本人ミーティングはどのような人を対象にするのか。認知症の人といっても、色々な人がいると思う。

○事務局

具体的にどの状態の方という限定はしないが、自分で思いを語れる方をまず対象にさせてもらいたい。実施していく中で、どういった方を対象にするのか検討していきたい。

○委員

認知症の人と記載すると、認知症の全ての人が対象となるように感じる。

○事務局

事業の周知をする際には対象の人が分かるように記載する。

○委員長

市で実施する際には、軽症の方を対象にして始めることになると思う。それは軽症の方が思いを語ってもらいやすいからであり、中等症や重度の方の意見を聞かなくていいというものではないと思う。本人の思いを聞く技術を高めていく必要があるが、軽症の方に対象を必ずしも絞らなくてもいいのではないかな。また、チームオレンジの活動の対象は在宅の方なのか、施設に入所されている方なのかについても、どちらが対象であってもいいと考える。

5. 閉会